

三鷹市教育委員会 様

学園・学校名 鷹南学園三鷹市立中原小学校

校長名 鈴木 恭子 印

令和6年度教育課程について（届）

このことについて、三鷹市公立学校の管理運営に関する規則に基づき、下記のとおりお届けします。

記

1 学園の教育目標

(1) 学園の教育目標

- ◎ 自ら課題を見つけ学び、考え、解決する人（重点）
- 自分や相手を大切にし、優しさを広げる人
- 自ら心身の健康を保ち、進んで行動する人
- 地域の一員としての自覚をもち、国際社会に目を向ける人

学園の目標を達成させるためには、児童・生徒自身が行動や学びを自己調整することが求められる。必要な資質・能力を「自己調整力」とし、令和6年度は、各校における児童・生徒の課題に応じ育成に取り組んでいくものとする。

(2) 学園の教育目標を達成するための基本方針

学園の重点目標を、「自ら課題を見つけ学び、考え、解決する人」とし、次の4点に重点をおき、学園の教育目標の達成を図る。鷹南学園の強みを生かした小・小連携及び小・中連携、そして地域と連携した学びを通し、「自分で自分の力を伸ばす、みんなが楽しい生活を築く」ことを大切にしながら人間力と社会力を育成する。誰一人取り残すことなく、将来自ら幸せな人生を切り拓いていけるための土台作りとなる資質・能力を児童・生徒に身に付けさせるとともに、学校に関わる全ての人のウェルビーイングの実現を目指し、学園としての一体感をもった取組と各校の特色を生かした教育活動を行う。保護者・地域社会が学園の教育理念を共有し連携・協力しながら、「社会に開かれた教育課程」の実現を図り、より良い学校・よりよい地域づくりを目指す。そのためには、すべての教育活動においてカリキュラム・マネジメントの充実を図りながら学園の教育の質の向上を目指す。

- 子どもたち一人ひとりが大切にされる教育（安心できる居場所となる学園・学校づくり）
- 個別最適な学び・協働的な学びの一体的な充実（「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善）
- 多様な他者との学び（学びの広がり・多様なコミュニケーション・社会性と主体性の育成）
- スクール・コミュニティの創造（地域をつなぐ拠点となる学校づくり）

ア 自ら課題を見つけ学び、考え、解決する人（重点）

(ア) 確かな学力の向上

- ・ これまでの学園研究の成果や・第五中学校の東京都授業改善推進拠点校としての研究成果を活用し、学園生全体の学力向上を目指す。
- ・ 学園研究を通し、各教科・領域の見方・考え方を十分に働かせながら、主体的・対話的で深い学びと協働的な学びの一体的な充実の実現を図る。
- ・ 全ての児童・生徒に確かな学力を身に付けさせるため、特性や学習進度、学習到達度に応じた指導

の個別化、興味・関心やキャリア形成の方向に応じた学習の個性化を図る。(学習用タブレット端末・地域未来塾・学習支援ボランティア・地域人財・地域資源の活用)

- ・ 3校の教員が日常的に授業を参観し合い授業改善に取り組む、持続可能な学園研究を実施する。
- ・ 各種調査結果から児童・生徒一人ひとりの課題を明らかにし、課題解決に向けた教員の指導の工夫と児童・生徒の学園生の資質・能力を高める。

(イ) だれ一人取り残さない一人ひとりを大切にする教育の実現

- ・ 三鷹市小・中一貫カリキュラム(更新版)の活用を図り、ユニバーサルデザインの考えを重視するとともに、小・中相互乗り入れ授業(国語・美術・教育支援)を活用し分かりやすい授業づくりを推進する。
- ・ 教育支援の充実を図るために、学園合同の特別支援研修を実施するとともに、小・中連携し児童・生徒の情報を共有しながら、「三鷹市教育支援プラン2022(第2次改定)」を基に、一人ひとりの児童・生徒の課題に応じた支援を行う。
- ・ 小学校6年生が中学校生活を円滑に始められるよう、3校の教員が十分な情報を共有する。
- ・ 不登校児童・生徒に対し、関係機関と連携し改善に向けた対応をするとともに、オンラインによる授業など、学習用タブレット端末を活用した学習保障を行う。

(ウ) 自己調整力の育成

- ・ 自分の力やよさを最大限に発揮し、自らよりよい行動(学習も含めた生活全般)ができるようにする。そのために、児童・生徒が主体的に学習に向かうための動機づけを大切にし、自ら目標をもって学習に取り組めるようにするとともに、学習方法を自ら選択できるようにする。キャリア・パスポートも活用しながら自分のよさや、できるようになったことに気付かせ、自己の行動や学習・感情などをコントロールし、主体的に学校生活を送れるようにする。

イ 自分や相手を大切にし、優しさを広げる人

(ア) 人権意識の向上

- ・ 児童・生徒が大切にされ安心できる環境の中で、多様な個性を尊重し自分も相手も大切にしながら、よりよく生きようとする態度、規範意識や義務・責任を果たそうとする態度を育てるとともに、いじめやネットモラルに関する正しい知識をもち、豊かな人権感覚、思いやりの心を育てる。

(イ) 道徳性の向上

- ・ 家庭・地域と連携した全教育活動を通して、「特別の教科 道徳」の授業を充実させ、意図的・計画的に道徳性を養う。公共心や規範意識などの社会性を育むとともに、いじめに関する問題を多面的・多角的にとらえ自分ごととして考えられるようにする。

ウ 自ら心身の健康を保ち、進んで行動する人

- ・ 東京都児童・生徒の体力調査の結果を踏まえ、学園の担当者等で学園・学校の課題を重点化し、体育の授業や体育的行事、日常的な取組を通じた体力向上について、実践・評価・改善を行う。小学校においては中学校体育科教員の専門的な指導を活用し、授業力を向上させる。
- ・ 家庭や地域と連携したり、休み時間や部活動、放課後の活動において運動に親しんだりし、運動をする習慣や意欲を高める。
- ・ 生活習慣の向上や心身の健康に向け自己管理に努めるとともに、心の不安や悩みに対処したりSOSを発信したりすることができる、心身ともに健康な児童・生徒を育てる。
- ・ オリンピック・パラリンピック教育のレガシーを生かした学習を行い、スポーツへの関心や豊かな

心を育てるとともに、ボランティアマインド・障がい者理解・豊かな国際感覚を養う。

エ 地域の一員としての自覚をもち、国際社会に目を向ける人

- ・ 地域社会における多様な他者との交流を通し、地域の一員として自分にできることを考え、実行しようとする態度を育てる。
- ・ 児童・生徒が主体となり学園・学校をより良くするために熟議等を行い、当事者意識や社会参画意識を養うとともに、鷹南学園の一員であることを誇りに思えるようにする。
- ・ 広い視野をもって国際社会に目を向け、異文化を理解し尊重する態度や共に生きていく力を育成するとともに、相手の立場を尊重しながら自分の考えなどを表現できる外国語能力の基礎や表現力等のコミュニケーション能力を育成する。

(3) コミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育としての重点

- ア コミュニティ・スクール委員会と協働し、児童・生徒が多様で豊かな体験活動を通し社会力・人間力を育むために、学校3部制の第2部・第3部と連携して地域社会の協力を得たり、学園版カリキュラムを活用し地域人財を活用したりしながら、教育活動の充実を図る。
- イ 学園運営委員会及び学園管理職会、学園研究会、小学校の同一学年間において、教職員が連携・協働するとともに、それぞれの役割を最大限に発揮することで学園をチームとして機能させ、児童・生徒のよりよい育ちに向けた学園づくりを行う。
- ウ コミュニティ・スクール委員会をはじめ地域の大人と、また児童・生徒間同士による協働的な学びを通し、多様なものの見方を育てたり、よりよい人間関係づくりをしたりしながら「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す。
- エ 鷹南学園合同行事（学園引き渡し訓練、学園集会、きょうだい学年交流、小6合唱交流（仮称）、児童・生徒会交流、小5中学校体験、あいさつ運動）及び地域行事を通じて、学園の児童・生徒及び教職員、コミュニティ・スクール委員会、地域・保護者が協働することで、地域がつながるとともに、児童・生徒のより良い環境づくりとなるスクール・コミュニティの実現を目指す。
- オ 小学校6年生における学園合同自然教室の実施に向け、1年生から段階的な小・小交流を教科横断的な視点と柔軟な発想で計画・実施する。
- カ 学園交流が単なる交流で終わるのではなく、児童・生徒それぞれが成長する機会となるよう、年間計画の評価・改善を行う。